

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「大和物語 姨捨（山の月）」 問題

信濃の国に更級と^①いふ所に、男^②住み^アけり。若き時に親^③死に^イければ、をばなむ親のウごとくに、

若くより^④添ひて^⑤あるに、この妻の心、憂きこと多くて、この姑の、^⑥老いかがまりて^⑦ゐ^エたるを常に

^⑧憎みつつ、男にもこのをばの御心のさがなく悪しきことを^⑨言ひ聞かせ^オければ、昔の^カごとくにも^⑩あ^キらず、

おろかなること多く、このをばのために^⑪なりゆき^クけり。このをば、いといたう^⑫老いて、二重にて^⑬ゐ^ケたり。

これをなほ、この嫁、^⑭ところせがりて、今まで^⑮死な^コぬことと^⑯思ひて、よから^サぬことを^⑰言ひつつ、

「^⑱もて^⑲いまして、深き山に^⑳捨て^㉑給ひ^シてよ。」とのみ^㉒責め^スければ、^㉓責め^セられ^㉔わびて、

さ^㉕し^㉖て^㉗むと^㉘思ひなり^チぬ。

月のいと明かき夜、「嫗ども、いざ^㉙給^㉚へ。寺に尊きわざ^㉛す^㉜なる、^㉝見^㉞せ^㉟奉^テらむ。」と^㊱言ひ^トければ、

限りなく^㊲喜^㊳びて^㊴負^ナは^㊵れ^㊶に^㊷す^㊸けり。高き山のふもとに^㊹住^ミみ^㊺ければ、その山にはるばると^㊻入^㊼りて、高き山の

峰の、^㊽下^㊾り来^ノべくも^㊿あ^㊽ら^㊾ぬに、^㊿置^㊿きて^㊿逃^㊿げて^㊿来^㊿とぬ。「やや。」と^㊿言^㊿へど、いらへも^㊿せ^㊿で、

^㊿逃^㊿げて家^㊿に^㊿来^㊿て^㊿思^㊿ひ^㊿を^㊿るに、^㊿言^㊿ひ^㊿腹^㊿立^㊿て^㊿フ^㊿ける折は、^㊿腹^㊿立^㊿ちてかく^㊿し^㊿つれど、年ごろ親のごと

^㊿養^㊿ひ^㊿つ^㊿つ^㊿あ^㊿ひ添^㊿ひ^㊿ホ^㊿に^㊿マ^㊿ければ、いと悲しく^㊿お^㊿ぼ^㊿え^㊿けり。この山の上より、月もいと限りなく

明かく^㊿出^㊿で^㊿た^㊿るを^㊿な^㊿が^㊿めて、夜一夜、寝も^㊿寝^㊿られ^㊿れ^㊿ず、悲しう^㊿お^㊿ぼ^㊿え^㊿ければ、

かく^㊿詠^㊿み^㊿たり^㊿ヨ^㊿ける。

わが心⁵⁹ ながさめかねつ更級や姨捨山に⁶⁰ 照る月を⁶¹ 見て

と⁶² 詠みてなむ、また⁶³ 行きて⁶⁴ 迎へ⁶⁵ 持て来^ラに^リける。それよりのちなむ、姨捨山と⁶⁶ 言ひ^ルける。

⁶⁷ ながさめがたしとは、これが由になむ⁶⁸ あり^レける。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「大和物語 姨捨(山の月)」 解答

信濃の国に更級と^①いふ所に、男^②住み^{マ四用}けり。^{過去}若き時に親^{ナ変用}死に^{過去}ければ、をばなむ親のウごとくに、^{比況}

若くより^④添ひて^⑤あるに、この妻の心、憂きこと多くて、この姑の、^{ラ四用}老いかがまりて^⑦あ^⑧えたるを常に^{ワ上一用 存続}

^{マ四用}憎みつつ、男にもこのをばの御心のさがなく悪しきことを^{サ下二用}言ひ聞かせ^{過去}ければ、昔の^{カ四用}かごとくにも^⑩あ^⑪らず、^{ラ変用 打消}比況

おろかなること多く、このをばのために^⑪なりゆき^{カ四用}けり。^{過去}このをば、いといたう^⑫老いて、二重にて^⑬あ^⑭けたり。^{ワ上一用 存続}

これをなほ、この嫁、^{ラ四用}ところせがりて、今まで^⑮死な^{ナ変用 打消}ぬことと思ひて、よから^サぬことを^⑯言ひつつ、^{ハ四用}

「^⑮もて^⑯いまして、深き山に^⑰捨て^タ給ひ^⑱てよ。」とのみ責め^⑲スければ、^{マ下二用}責め^{マ下二用}られ^{バ上二用}わびて、^{過去}

^{サ変用}さ^⑲して^⑳むと^㉑思ひ^㉒なり^㉓ぬ。^{ラ四用 完了}強意

月のいと明かき夜、「^㉔嫗ども、いざ^㉕給へ。」^{ハ四用}寺に尊きわざ^㉖すつなる、^{サ変用 伝聞}見せ^㉗奉ら^㉘む。」^{ヤ上二用}と^㉙言ひ^㉚ければ、^{ハ四用}意志

限りなく喜びて^㉛負は^{ナレニ}に^㉜スけり。^{バ四用}高き山のふもとに^㉝住み^{マ四用}ければ、その山にはるばると^㉞入りて、高き山の^{ラ四用}

峰の、^㉟下り来^㊱べくも^㊲あら^㊳ぬに、^{カ変用}置きて^㊴逃^{ガ下二用}げて^㊵来^㊶とぬ。^{ハ四用}「やや。」と^㊷言へど、いらへも^㊸せで、^{サ変用}

^㊹逃^{ガ下二用}げて家に^㊺来て^㊻思ひ^㊼をるに、^{カ変用}言ひ^{ハ四用}腹立^{タ下二用}ちてかく^㊽し^㊾つれど、年ごろ親のごと^{サ変用 完了}

^㊿養ひ^{ハ四用}つつあひ添^{ハ四用}ひ^㊿に^㊿マければ、いと悲しく^㊿おぼえ^㊿けり。^{ヤ下二用}この山の上より、月もいと限りなく^{過去}

明かく^㊿出^㊿で^㊿たるを^㊿ながめて、夜一夜、寝も^㊿寝^㊿られ^㊿ず、悲しう^㊿おぼえ^㊿ければ、^{ナ下二用}可能 打消

かく^㊿詠^㊿み^㊿たり^㊿ける。^{マ四用}完了 過去

わが心⁵⁹ ながさめかねつ更級や姨捨山に⁶⁰ 照る月を⁶¹ 見て
ナ下二用 ラ四体 マ上二用

と詠みてなむ、また⁶³ 行きて⁶⁴ 迎へ⁶⁵ 持て来^ラに^リける。それよりのちなむ、姨捨山と⁶⁶ 言ひ^ルける。
マ四用 カ四用 ハ下用 カ変用 完了 過去 ハ四用 過去

⁶⁷ ながさめがたしとは、これが由になむ⁶⁸ あり^レける。
マ下二用 ラ変用 過去